



## 「総合的な学習」で集めたマークを寄贈

### 栃木県真岡市立亀山小と愛知県稲沢市立稲沢西小

3月下旬、ベルマーク財団に二つの小学校から寄贈マークが届きました。いずれも総合的な学習の一環として、学年単位で子どもたちが取り組んだものです。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため臨時休校となったなか、子どもたちの思いの詰まったベルマークが、先生たちの手によって届けられました。



栃木県の真岡市立亀山小学校（池田範夫校長、児童261人）からは、会社別にビニール袋で小分けされたベルマークが届きました。同封の手紙には「災害などで困っている学校に役立ててもらいたいと考えてこの活動を行いました……4年生児童一同」とありました。

2019年度の4年生37人は総合的な学習の時間で福祉を学び、「自分たちにできるボランティア」に取り組む中、ベルマークを集めたグループがありました。担当の鈴木大貴先生と亀倉和晃先生によれば、図書室の本やインターネットで調べてベルマークにたどりついたそうです。グループは全校児童にマーク収集を呼びかけ、1月に回収。2月中旬から、4年生全員で仕分け作業にとりかかりました。ところが学校は3月2日から休校に。で

も鈴木先生は「マークは責任を持って送ります」と子どもたちに伝えたそうです。手紙は亀倉先生が子どもたちに代わって書きました。



愛知県の稲沢市立稲沢西小学校（澤田豊喜校長、児童610人）からは、会社別に封筒に小分けされたマークが届きました。手紙には「社会で困っている人達の手助けができないかと考え、2月の1カ月間、ベルマーク集めを行いました……5年生一同」とありました。

2019年度の5年生は、総合的な学習の時間で福祉の学習をし、3学期は「わたしたちにできること」をテーマに、学年全体でベルマーク収集にチャレンジしました。動画「未来を育むベルマーク」を全員で視聴し、各教室にダンボールの回収箱を置くなどしてマーク収集を呼びかけました。

マークは子どもたち自身が仕分け・集計をする予定でしたが、その矢先の3月2日から休校になり、作業は先生方が引き継ぎました。瀬尾佳史先生は「子どもたちは福祉に関わることへの実感が持てたのでは」と話します。マークの合計点数は4910.7点でした。



④亀山小の子どもたちが仕分けたマーク

⑤稲沢西小から届いた会社番号ごとに分けられたマークと集計表

## ボランティアの一環としてベルマーク収集

### 熊本県立宇土中から寄贈マーク

4月上旬、ベルマーク財団に熊本県立宇土中学校（森田淳士校長、生徒240人）から寄贈マークが届きました。生徒のボランティア推進委員会が主体となって集めました。マークをまとめる作業途中の3月、新型コロナウイルス感染拡大防止のため学校が臨時休校になりましたが、まとめた分のマークが先生の手によって届けられました。

宇土中は、県立宇土高校との併設型中高一貫校として2009年に開校。各学年で年2回宿泊体験を実施し、特に3年生は無人島で2泊3日の「サバイバル生活体験」をするのが特徴です。

ボランティア推進委員会は各クラス2～4人の委員で構成され、書き損じはがき集め、赤い羽根やユニセフへの募金などを行っています。自校の買いものためではなく、ボランティアの一環としてベルマークを集めていて、5年前にも財団に寄贈しました。集めた点数を競う全校

のクラスマッチも実施しているそうです。

2019年度も米田悠真委員長が全校集会でベルマーク収集を呼びかけ、委員たちも周知活動を展開。各クラスにある回収箱からマークを集めました。財団に届いたマークは、委員たちの手でテープに貼って会社別などにまとめられていました。

今回マークを財団に送ったのは、長く委員会の担当を務めた河野年美先生でした。「まだ周りから支えられている生徒にとって、何かの形で社会に貢献できることはうれしいことだと思います」と話します。

先生を通して米田委員長の感想を聞くと「マークの仕分け作業は大変でしたが、みんなで分担してやることができました」。改めてマークが色々なところで活用されていると知り、コツコツと集めればたくさんになることに驚いたとのこと。米田委員長は今春、進学先の宇土高でもボランティア推進委員会に入ったそうです。



⑥昨年6月、全校集会でマークの収集を呼びかける米田悠真さん（左から2番目）  
⑦宇土中から届けられたマーク

## 東日本大震災の支援校から感謝メッセージ

### 福島県・久之浜第二小、宮城県・鹿又小、入谷小

ベルマーク財団が2019年度に実施した東日本大震災被災校支援の対象校から、感謝メッセージが届きました。まとめて紹介します。



福島県いわき市の市立久之浜第二小学校（片寄敦校長、児童21人）からは3月中旬、感謝のメッセージとサイネリアの鉢植えが届きました。同小は毎年のように財団にサイネリアを送ってきてくれます。校舎内で苗から育て、子どもたち

が世話をしてきたそうで、届いた鉢植えはきれいなピンクの花が咲いていました。全校児童の笑顔の写真と「いつもぼくたちのことを見守ってくださりありがとうございます」というメッセージが添えられていました。

宮城県石巻市の市立鹿又小学校（相沢進校長、児童283人）からは、子どもたちの様子を伝える写真入りのメッセージが届きました。本の読み聞かせ、運動



会、田植え、音楽集会、持久走大会……。学校生活の様々な行事で、生き生きと活動している子どもたちの姿が収められています。今回の支援では30メートルの綱引きロープなどを購入したそうです。

宮城県南三陸町立入谷小学校（高橋有校長、児童66人）からは、3年生が書いてくれた手書きのメッセージと写真を貼った画用紙が贈られてきました。今回の支援で、らいとどっじボール6個と50型液晶テレビ、ディスプレイスタンドを購入しました。子どもたちの学校生活の

充実役に役立っているといえます。震災で大きな被害を受けた南三陸町では、子どもたちにも大きな影響が残っており、同小では児童の「心のケア」に継続的に取り組んでいるそうです。「ハード面での復興は進んでも、ソフト面の復興は難しい。心は見えませんか」と高橋校長。



久之浜第二小のサイネリアは、財団事務所で長く花を咲かせ続けました。新型コロナウイルス禍で業務休止中も、留守番の職員が水をやったり、自宅に持ち帰って風に当てたりと世話。その甲斐あって、5月の業務再開後も職員や来客の目を楽しませてくれました。



# セイコーエプソンが19万点を寄贈

## 新型コロナウイルス禍、各地で支援活動も



⑤都市閉鎖され物流が止まったため、武漢・雷神山医院では社員らが人力で寄贈するプリンターを運びこんだ  
⑥カートリッジ回収のしくみを発案・構築した小池尚志さんと、社会貢献の佐藤幸子さん



セイコーエプソン（本社・長野県諏訪市）から、ベルマーク19万3,945点分が財団に届きました。同社は、協賛会社のエプソン販売（ベルマーク番号73）の親会社で、2012年から全社をあげて、自社の使用済みのインク・トナーカートリッジを収集、マークに変えて財団に寄贈してくれています。

今回届いたのは2019年4月から2020年3月までに収集・整理されたもので、内訳は、インクカートリッジが37,669個、トナーカートリッジが112個でした。障がい者雇用を促進している特例子会社のエプソンミズベ（本社・長野県諏訪市）で整理され、ベルマーク点数となりました。国内にいくつもの拠点を持つ同社で

すが、それぞれに回収箱を設置して社会貢献活動への意識を高めています。

活動を担当しているのは、総務部・社会貢献チームの佐藤幸子さん。「例えば本社には4箱、最も大きな塩尻市の広丘事業所には7箱を設置し、マークを持ってきて下さるお客様や地域の方のために一つは必ず正面入り口付近に置きます。

また、社内のホームページには過去の実績を掲載、半期ごとに更新します。

社会貢献チームはグローバルな、社会貢献活動の推進も担っており、新型コロナウイルスの世界的流行を受けて、拠点のある世界各地で様々な支援活動をしました。本社のある長野県では、緊急事態のために用意していたマスクやフェイスシールドを医療機関に提供。最初に感染者が見つかり2カ月半も都市封鎖された中国・武漢市では、急ぎよ建てられた仮設病院にプリンターを提供し、インドネシア・パタム島の医療機関には医療用マスクや消毒液を届けるための支援を行いました。

エプソン販売がベルマーク運動の協賛会社になったのは2004年。インク・トナーカートリッジをリサイクルにつなげる仕組みを最初に生み出しました。「環境への意識を高めたり、障がい者雇用にもつながったりする、画期的なしくみでした」と佐藤さん。

さらに、ベルマーク収集の魅力を「子どもから大人まで、家庭でも会社でも参加できる社会貢献活動。小さな善意の積み重ねが、どなたかのお役にたてることにつながる」と話してくれました。

# コロナ禍への対応に「ありがとうの手紙」

## ファミマが社員の子どもたちの作品をHPで公開

協賛会社のファミリーマート（ベルマーク番号23）は、医療従事者をはじめとした新型コロナウイルスに向き合い社会を支えている人に向けて、社員の子どもたちが書いた「ありがとうの手紙」を同社ホームページで公開しました。

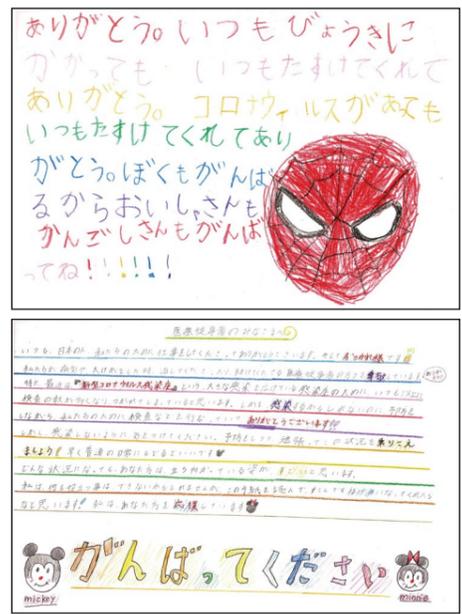
同社サステナビリティ推進部CSR推進グループが中心になり、「今、頑張っている誰かに『ありがとうの手紙』を書こう」と、社内イントラネットやメールを通じて全社員に呼びかけ、子どもたちからの感謝メッセージを募集しました。

スパイダーマンの絵を描いた小学1年生は、その隣に大きな字で「いつもたすけてくれてありがとう。ぼくもがんばるからおもしろいさんもかんごさんもがんばってね!!!!!!」。また「医療従事者のみなさんへ」と題した中学2年生の手紙には、医療従事者の負担を減らすため「外出を我慢しています。毎日、日本のためにありがとうございます」と綴られていました。

同社は2009年から小学生の「ありがとうの手紙コンテスト」を実施しています。

子どもたちが感謝の気持ちを伝え、コミュニケーションを持つことの大切さを学ぶことが目的で、これまでに累計36万通の手紙が全国から寄せられました。12回目となる今年も7月1日から募集をしますが、普段感じている「ありがとう」に加え、コロナ禍に対応する様々な人たちへの感謝の手紙もあわせて募る予定です。

手紙は以下のURLで読めます。  
[https://www.family.co.jp/sustainability/children/thanksletter\\_employee.html](https://www.family.co.jp/sustainability/children/thanksletter_employee.html)



## 「地域のつながりづくり応援!」 キリンビバレッジがキャンペーン

協賛会社のキリンビバレッジ（ベルマーク番号54）中四国地区本部は、中四国エリアの学校を支援する「ベルマークで簡単に応募できる!～地域のつながりづくり応援!キャンペーン～」を7月末まで展開します。同社のベルマーク付き清涼飲料水（生茶/生茶デカフェ/キリンレモン/小岩井純水フルーツシリーズ/ラブズスポーツ）のマーク4点1口で応募すると、早摘み瀬戸内レモンエキス使用のキリンレモン450mlボトル1ケース（24本）が抽選で100人に当たります。応募はキャンペーン実施店にある専用ハガキか官製はがきで。締切は7月31日（金）、当日消印有効。問い合わせはキャンペーン事務局（電話0120-465231、平日10時～17時）へ。



## ベルマーク増量の限定パック 「生茶」「小岩井」で発売中

協賛会社のキリンビバレッジ（ベルマーク番号54）は、ベルマークを特別に増量した「限定パック」商品販売しています。生茶/生茶デカフェ/小岩井純水りんご/同ぶどうの4種類。生茶・生茶デカフェは6本パックで、外装には大きな20点のベルマークが付いています。小岩井純水りんご・ぶどうは4本パックで10点。どちらのパックも、ペットボトル自体に付いているマークもそのまま使えます。生茶ブランドで計6万2000パック、小岩井ブランドで計4万6200パックを製造しました。5月12日から発売しており、限定品のため、商品がなくなり次第終了となります。



## クツワ「100年文具への道」 商品アイデアを募集

協賛会社のクツワ（ベルマーク番号55）がユニークな文具のアイデアを募集する「100年文具への道」を今年も開催します。第9回となる今回は3つのテーマ「思い出になる文具」「プレゼントしたくなる文具」「自慢したくなる文具」から一つを選んで応募してください。大賞には賞状と商品券10万円分が贈呈されます。応募に必要な「登録用紙」と「アイデアシート」の締切は7月31日（金）必着。募集要項やコンテストの詳細はこちら（<https://www.kutsuwa.co.jp/awards/hundred/>）。問い合わせはクツワ株式会社サービスセンター「第9回100年文具への道」大賞係（電話06-6745-5611、平日10時～17時）へ。



# 読んでみたい本 児童文学評論家・藤田のぼる

## 絵本

『ねずみくんはめいたんてい』  
(なかえよしを・作、上野紀子・絵、ポプラ社)

この新作絵本を見て、ちょっとびっくりしました。実は絵の上野紀子さんは昨年亡くなられ、ねずみくんのシリーズはおしまいだと思っていたのです。説明を読むと、これまでに描かれた絵をパソコンで組み合わせて作成したとのこと。なるほど。それにしても、不自然さをまったく感じさせない仕上がりで、高い木になっていたたった一個のりんごを誰がとったのか、ねずみくんの名？推理に魅かれてページをめくる手が止まりません。(低学年以上向き、1000円+税)



『虫ガール ほんとうにあったおはなし』  
(ソフィア・スペンサー／マーガレット・マクナマラ文、ケラスコエット絵、福本友美子・訳、岩崎書店)

虫が大好きで、他の女の子たちから「ソフィアってへん」「きもい」と言われ、虫のことはいったん「おやすみ」にしたものの、ママがネットで紹介すると、虫が大好きな世界中の人たちからメールが寄せられたという、本当にあったお話を、絵本にしたもの。虫が好きではない子にとっても、ソフィアの哀しみや喜びが、無理なく伝わってきます。(低学年から、1500円+税)



## 低・中学年向け

『雨の日は、いっしょに』  
(大久保雨咲・作、殿内真帆・絵、佼成出版社)

学校の玄関の傘立てにたてかけられたハルくんの黄色いかさ。今日は雨が降ってきたので出番ですが、それを前に緑色の折り畳みがさに話しかけます。折り畳み傘は、黄色いかさのあこがれだったのです。折り畳みがさがいなくなると、今度は透明のビニールがさが話しかけてきます。ビニールがさもあこがれの相手でした。ようやく持ち主のハルくんがやってきて外に出た黄色いかさ。ハルくんが転んだところに風が吹いてきて、黄色いかさの冒険が始まります。かさが主人公という話はこれまでもありましたが、この物語からは本当にかさの気持ちが伝わってくるようで、雨の日が楽しくなるにちがいません。(低学年以上向き、1200円+税)



『赤ちゃん キューちゃん』  
(藤川幸之助・作、宮本ジジ・絵、クリエイツかもがわ)

「絵本 子どもに伝える認知症」シリーズの1冊目。セルロイドの人形のキューちゃんを、まるで自分の子どものように手放さずに世話をするおばあちゃんの姿が描かれます。こういう題材は、「説明」と絵本としてのストーリー性のバランスが大切になりますが、極力説明は抑えて、おばあちゃんの人形への愛情の意味を、読者に理解してもらえるように作られています。子どもと一緒に見ていけば、おばあちゃんの家族の表情などからも、さまざまな発見が得られるのではないのでしょうか。(低学年から、1800円+税)



『8・9・10!』  
(板橋雅弘・作、柴崎早智子・絵、岩崎書店)

タイトルは「バクテン」と読ませます。「わたしには夢がない」という一文で始まる、4年生の〈わたし〉の物語。ママと二人暮らしであまり負担をかけたくない〈わたし〉は、塾へも習い事にも行かず、いつも河川敷のベンチの前でダンスの練習をしています。ある日、そのベンチにさえない感じのおじさんが座っていて、2回目の時ジャージを着てきたおじさんは、見事なダンスを披露して〈わたし〉を驚かせます。おまけに見事なバク転まで。自分のダンスにバク転を取り入れたいと思った〈わたし〉は、おじさんからバク転のレッスンを受けることに。最後まで正体不明のおじさんと、学校でも周りとの距離感に腐心する女の子との、不思議な出会いの物語です。(中学年以上向き、1200円+税)



## 高学年・中学生向け

ここで紹介する2冊はいずれもかなり読み度がある作品で、どちらもそれなりに〈昔〉の物語です。〈今〉との違いを受けとめ、楽しみながら読んでもらえれば、逆に今に重なるおもしろさを味わってもらえると思います。

『名探偵カッレ 地主館の罟』  
(アストリッド・リンドグレーン作、菱木晃子・訳、平澤朋子・絵、岩波書店)

リンドグレーンの1951年の作品で、日本では1958年に『カッレくんの冒険』として紹介されて以来親しまれてきた作品の新訳です。スウェーデ



ンの小さな町のカッレ、アンデッシュの二少年と女の子のエヴァロッタという、「白バラ軍」を名乗る三人組。ライバルは男の子三人の「赤バラ軍」。この二組の間では、小さな石の「聖像」をどちらが手にしているかでイニシアチブが決まります。街外れの草原に打ち捨てられた古い屋敷(地主館)にアンデッシュが閉じ込められ、聖像が赤バラ軍の手に落ちる危機が迫った時、カッレとエヴァロッタは本物の犯罪に出っくわします。子どもに対しての大人、「ごっこ」に対する「本当」の優位性が語られるのではなく、子どもの本当が大人の本当を乗り越えていくような痛快さを味わえる、「ピピ」とは一味違ったリンドグレーンのおもしろさに出会えます。(高学年以上向き、2100円+税)

『鐘を鳴らす子供たち』  
(古内一絵・作、小峰書店)

敗戦間もない昭和22年、東京近郊の小学校6年生の良仁は、比較的余裕のある家庭の子どもたちのクラブ活動である演劇部「小鳩会」のメンバーではないにも関わらず、顧問の菅原先生から、NHKのラジオドラマのオーディションに参加させられます。戦争孤児たちを描いた「鐘の鳴る丘」でした。戸惑いながらも、次第にドラマ収録にのめりこんでいく良仁。菊田一夫役の「菊井」、古閑裕而役の「古坂」など実在の人物を登場させながら、敗戦後の時代と特別な形で向き合えなければならなかった子どもたちの格闘が描かれます。プロローグとエピソードは菊井が死を迎えた昭和48年に設定されていて、大人になった良仁たちの「戦後」への思いが語られます。(高学年以上向き、1600円+税)



## ベルマーク寄贈者・友愛援助リスト(敬称略)

〈震災寄贈〉4月21日～5月20日  
▼北海道 佐藤美由紀▼宮城県 カトリックあけの星会▼山形県 武田洋明 村山千里▼埼玉県 五十嵐孝子 梅田直美 神尾美絵 服部由美子 山口文江 吉成ゆかり 渡辺春▼千葉県 神崎美樹 関田元子▼東京都 パナソニックシステムソリューションズ(株)本社総務部 五十嵐千代子 大井川沙智子 大井久雄 庄司名保美 高橋皆喜 千葉久美子 中村宇佑 中村優佳 長谷川あゆみ 藤澤大地 古澤琉 松浦奈緒子 真鍋ひとみ 村井智子 大橋小夜子 川越佳子 日本基督教団小金井緑町教会 中村麻子 山上七海 匿名希望▼神奈川県 加藤美和 菊地貴子 篠原礼子 多田友子 田中宏 牧田知与 松本弘美 吉村胡実 神奈川県農協青壮年部協議会 匿名希望▼新潟県 折原弥寿子 中村恭子▼富山県 森田純子▼長野県 篠原雅子▼岐阜県 井貝未奈▼愛知県 阿部永里名 成瀬輝雄 堀部悦子▼京都府 西尾知江子▼大阪府 樋口福 平野出戸郵便局 匿名希望▼兵庫県 新井東寿 健斗▼奈良県 川中理央▼広島県 山陽石油(株)▼山口県 白石健太郎 細井優希▼愛媛県 野口杏▼福岡県 重松さおり 藤嶋孝幸▼熊本県 北原恵子 村上久美▼鹿児島県 中島典子▼沖縄県 大嶺さつき 比嘉智子▼無記名=23件

小野寺玉枝▼宮城県 吉田バアバラ・かほる 上田ゆきえ 星昭一 丹治美佳 樋口由理子 匿名希望▼秋田県 放課後等デイサービスチャイルドステーションゆうゆう▼福島県 国見町ベルマーク委員会 本田修一▼茨城県 (株)東栄化成 SMK (株)ひたち事業所 菅谷萌那 石塚英和▼栃木県 山口ゆり咲 山口真緒・智史・葵夏 篠塚春美▼群馬県 羽鳥千春▼埼玉県 (株)エムエスジー 横谷富美 原村佳代子 高橋由香里 新井和行 大屋稔 藪陽一 山崎恵美 清水ちひろ 田口飛翔 匿名希望▼千葉県 菊地奈々世 市川大野高等学園 小倉陽子 鈴木ます子 穴倉洋介▼東京都 (株)トップ電気グループ (株)郷電気 奥野玲子 横田あづさ 笠原中子 関明美 岩下 企業年金ビジネスサービス(株) 吉本夏音 原真紀子 高沢健 佐藤公子 山崎郁子 市川佳世子 寺元健二 女子パウロ会 小松鋭之 森一啓 秦野美代子 杉本聡子 第一生命保険(株)団体年金サービス部 田嶋敦 土肥けいこ 島崎真奈美 東京海上日動調査サービス労働組合 北沢由紀子 アンジェラ 丹羽瑛子 岡部明子・庸子 上敷股 星野一樹 徳岡めぐみ 浜田由子 米谷彩杜 味の中華〈綿徳〉 匿名希望▼神奈川県 (株)ハウスクリニック横浜中央センター 加藤菊美 吉村胡実 石黒琢一郎 川崎久美子 中川 陶山 育子 風間篤 網代善之 柳下和子 鈴木紀子 鈴木美瑛 匿名希望▼新潟県 夏見陽子 小玉一枝 地域密着型複合施設わしま 南芳子

藤田ゆみ子▼石川県 アイスター商事山本か乃子▼福井県 花筐小学校▼山梨県 吉田博 匿名希望▼長野県 セイコーエプソン(株)▼静岡県 島中将也 鈴木章弘▼愛知県 JP 労組名古屋貯金支部 倉田瑞生 村瀬勇 大久保冨華 長江正則 長谷川優 天野章子 梅村 鈴木みつる 島村有紀 匿名希望▼三重県 出口郁子 石倉由賀 村端さと子 中野恵子▼滋賀県 吉野家▼京都府 芝原三友紀 小西宏和 近藤衛代▼大阪府 伊佐登志子 岡村吉泰 沖雅也 角井英子 松本由美子 石垣牧子 野上里美 大西祐子 倭明美▼兵庫県 神戸大学大学院 海事科学研究科内海域環境教育研究センター 今西正樹 佐藤さよみ 青木由子 川越理恵 損害保険ジャパン(株)西日本船舶営業部関西営業課 木村小夜子▼和歌山県 松尾あい▼鳥取県 永原千恵▼島根県 多々納美幸▼岡山県 吉岡美津子 大塚泰弘▼広島県 細川美緒 反本真紀 田中稔 藤田知子 匿名希望▼山口県 福島ゆかり▼香川県 中村町子▼愛媛県 ベルボラ愛媛▼福岡県 粟山啓子 永富翔一朗 鈴木久子▼佐賀県 損保ジャパン(株)佐賀カスタマーセンター室▼熊本県 橋口響▼大分県 井上義雄 石堂泰史▼佐藤聡子▼無記名=49件

〈友愛援助申し込み〉5月1日～5月31日  
◆新潟県 巻南小(新潟市西蒲区) ◆長野県 丸子中(上田市) ◆岐阜県 芥見小(岐阜市)

## 大台達成校

5月		
吉原小	静岡県富士市	5,013,748
白幡台小	川崎市宮前区	3,005,050
磯部小	群馬県安中市	2,037,631
西浮間小	東京都北区	2,008,347
平戸台小	横浜市戸塚区	2,007,613
緑園西小	横浜市泉区	1,021,494

## 財団業務は通常に戻りました

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が5月25日に解除されたのを受け、ベルマーク財団は6月1日から事務所業務を通常型に戻しました。出勤・退勤時の混雑を避ける「時差出勤」は継続実施中です。5月11日に開かれた財団理事会は理事・監事のうち7人がリモート参加して2019年度決算などを承認しました。6月3日の評議員会は書面で同意を得る「みなし決議」で実施されました。